

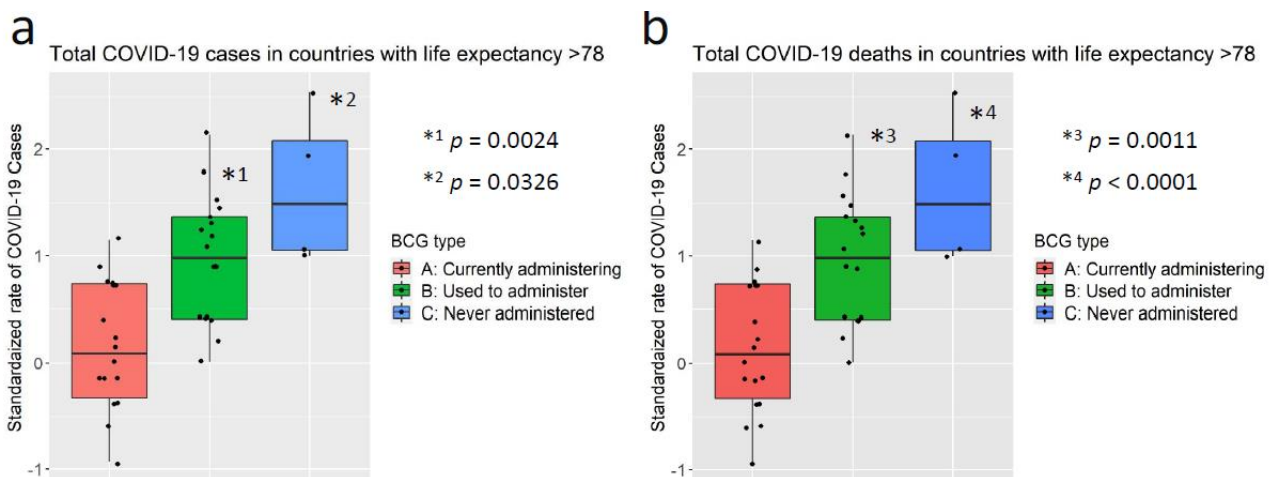
ひげ博士のホットレポート－最新免疫学講座(号外) 特別講義 第二回 (2020年5月8日)

皆さん、ひげ博士じゃ。今回は藤田保健衛生大学の宮川教授の最新の論文の中から、世界各国の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発症と各国の測定期間(約2ヶ月間)の平均気温または、各国の平均寿命との関連性についての解析結果を紹介したわけじゃ。今回は引き続き宮川教授の論文の中から、BCG ワクチンと新型コロナウイルス感染症の関係を解析した図を紹介しよう。



平均寿命が短い国は種々の社会的な要因が複雑に影響を与えるので、平均寿命が78歳以上の国々に絞って解析しているのじゃ。BCG ワクチン接種している状況により各国を A: 継続的に BCG ワクチンを接種している国、B: BCG ワクチンを接種していた経験のある国、C: BCG ワクチン未接種国、の3つに分類しておく。下図の”a”は、人口100万人あたりの新型コロナウイルス感染の症例数と BCG ワクチン接種との関連性が、”b”に100万人あたりの新型コロナウイルス感染による死亡数と BCG ワクチン接種との関連性が示されておる。図からわかるように、感染者数も、死亡数も共に A: BCG ワクチンを接種している国 < B: BCG ワクチンを接種していた経験のある国 < C: BCG ワクチン未接種国、ときれいに分けられるのう。

doi: <https://doi.org/10.1101/2020.03.30.20048165> より転載



この論文では、高齢化が進んでいる国で BCG ワクチン接種の有無を比較した結果、BCG ワクチン接種国では、感染者数も死亡数も明らかに少ないことを教えてくれておる。これまで、根拠がはっきりしていなかったのじゃが、宮川先生のデータからは BCG ワクチン接種している国は新型コロナウイルス感染になりにくい、重症化しにくいことを示していると思われるのじゃ。しかし、人の生活というのは色々な要因が関わっているのうので、まだまだ、検証していかないと行けないので、注意が必要じゃ。次回の講義では、BCG ワクチン接種したことがどうして感染予防効果良いのかということについての考えを紹介することにしよう。では、次回お目にかかるまで、皆さんごきげんよう。